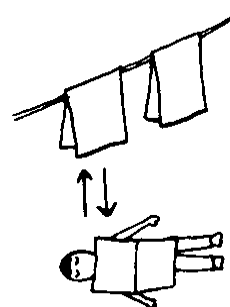
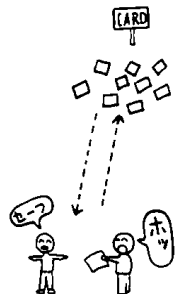




テーマ：テント生活 ねらい：人間と大自然のかかわりを知る

時間	担当	項目・内容	準備品
	()	1. 集まってくる間 キャンプ用品が借りられれば、いくつか展示しておく。 (テント、炊事用具、ランタン、寝袋・・・など) 早く来た子どもに、自由にさわってもらう。	キャンプ用品 (展示用)
0 (5)	()	2. 開会 はじまりのことば(セレモニーの説明をする) セレモニー(お届け、天地書附、など)	
5 (5)	()	3. テント生活とは 今、生活は安定しているが、永遠に続かない。石油が止まれば、完全にパニックである。 どんなことがおころうとも、慌てない心を持ち、状況に応じて生き抜く方法を知ることが、意味のあることである。 生活には、いくつかの条件があるが、今日は、寝る、食べる、出すの3原則を学ぼう。	
10 (15)	()	4. 外で寝る(原則その1) 外で寝られない原因の一番は寒さである。寒さは下から来る。そこで乾し草やマットを敷いて寝るとよい。つぎに、湿気が大敵である。寝苦しいし、冷え込む。そこで昼間の乾燥に心がけること。ジトジト布団はダメ!	
	とりこみ役 ()	5. 布団ほし競争(ゲーム) 各自新聞を一枚ずつもつ。これが自分の布団である。寝る場所と、布団をほす場所を分けておく。まず、寝る場所で、各自、布団を引いて寝る。 次に、笛の合図で起きて、布団を干しに行く。布団を干す場所には、ひも又はロープを張っておく。 次の笛の合図で、ふとんをやぶらないようにとりこんで、寝る。これを繰り返していくが、途中でリーダーが、布団をへらすことがある。布団がない人はカゼをひくので注意。布団のない人は、「ゴホン!」と言う。 (布団が破れたらカゼを引くようにしてもよい)	新聞紙 ひも又はロープ 笛 1
25 (15)	()	6. なんでも食べる(原則その2) 人間が増えすぎて、食べるものが足りなくなる日が、いつか来る。 人間は、他の生命を頂いて生きているのであるから、謙虚でありたい。そして感謝をもっていただきたい。毒がなければ食べられるはずだが、食べる食べないは、習慣によるところが大きい。いざとなればなんでも食べられる。	



	<p>判定人 ()</p>	<p>7. 毒に手を出すな(ゲーム) 遠くに、食べ物をばらまいておく。 各自、カードを1枚もってきて、判定人に見せる。OKならば、次のカードを取りに行く。アウト(毒)と言われたら、そこで1度に倒れる。(バタリ) カードがなくなるまで続ける。アウトになってもまた、起きて取りにいてもよい。後で毒のものを確認する。 名前のカードの例を示すが、できれば図鑑を参考に、図の入ったカードを作るとよい。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>[OK] カイコ、カブトムシ、セミ、ゴキブリ、バッタ、イモムシ、カマキリ、ヘビ、モグラ、ミミズ、カタツムリ、ナメクジ、カエル、ドジョウ、タニシ、イモリ</p> <p>[アウト] フグ、アカエイ、アンコウ、カワハギ</p> <p>[OK] フキノトウ、ワラビ、ノビル、ツクシ、ヤマウド、ハス、シメジ、ヒラタケ、ツユクサ、アケビ、サンショウ</p> <p>[アウト] テングダケ、アセビ、ナットウダイ、キツネ、カミソリ、イチリンソウ、ノウルシ、クサノオウ</p> </div>	<p>カード多数 (できれば図入り)</p> 
<p>40 (15)</p>		<p>8. ウンコが出る(原則その3) 人間は、ベンピすると苦しい。激しくなると入院だ。お取りはからいのお願いをしてトイレに入ろう。朝、冷たい水や牛乳を飲むと出ることがある。出たくなったときに、我慢してはいけない。もちろんトイレはきれいにしておかないと、行く気がしないものである。</p>	
	<p>ボード係 () ウンチ カード係 ()</p>	<p>9. ウンコをためるな(ゲーム) 1から5までの数字ボードと、牛乳マーク1つを用意する。(2枚でもよい) リーダーは、牛乳マークを分からないように、ボードの一枚にはりつける。各自は、好きなボードの前に並ぶ。 牛乳マークのボードの人はよいが、それ以外の人はベンピとなり、うんちカードをもらう。 これをくり返し、うんちカード4枚をためてしまった人は、入院となり、1回ゲームをはずれる。ただし、途中で牛乳カードの着いたボードの前に並んだら、それまでたまっていたうんちカードは、きれいに流れてしまい、リーダーに返す。</p> 	<p>数字ボード5 牛乳マーク1</p>  <p>ウンチカード 多数</p>

55 (30)	()	<p>10. テントはり(工作)</p> <p>ものほしざお(又は2.5~3mの竹)3本をそろえ、その一方をロープでくくってから、広げ、インディアン型テントの骨組みにする。</p> <p>(室内でするときは、タタミなどキズつけぬよう、足の方をぞうきんでくるむとよい)</p> <p>新聞紙とセロテープで、みんなで、壁を作っていく必要に応じて、強度のかかるところは、ガムテープを使う。ハサミで、入り口を作ったり、すそを切りそろえる。</p> <p>完成したら、みんなで入ってみる。</p> <p>骨組みは、多目にした方がテントらしくなる。(4~6本)</p> <p>高いところ用に、キャタツがあると、便利</p> <p>セロハンテープでは止めにくいので、工夫がいる。</p>	<p>ものほし竿 3~4 (又は竹)</p> <p>新聞紙</p> <p>セロテープ</p> <p>ハサミ</p> <p>ガムテープ</p> <p>ひも (又はロープ)</p> <p>ぞうきん 3~4</p>
85 (10)	()	<p>11. 人間と大自然(お話)</p> <p>人間は天地自然をはなれては、生きられない。生きている間も、死んで霊(みたま)となっても、この天地がすみかである。</p> <p>天地の大きな働きの中で、人間が生命をいただいて生かされて生きていることを、体で感じるができる。</p> <p>畏敬と感謝 大自然の写真、絵を見せつつ。</p>	<p>大自然の写真 など、あればよい</p>
95 (5) 100		<p>12. 閉会</p> <p>セレモニー(お届け、天地書附など)</p> <p>おわりのことば</p>	

